

■ 第4回小樽港フィールド・ラーニングの開催について

北海道開発局 小樽開発建設部 小樽港湾事務所

平成26年10月1日(水)、小樽開発建設部において、開発局職員約40名が参加し、第4回小樽港フィールド・ラーニング(以下、O.F.L)が開催されました。

O.F.Lは、小樽築港開始時の計画、調査、設計、施工を始め我が国初の近代築港の計画、築造における廣井勇博士(初代小樽港湾事務所長)の工学の考え方を学ぶことは、港湾技術者としての意識・技術・知識、港湾を含む社会資本整備の計画・説明力等の向上に効果的であり、小樽港(Otaru)で実物を見ながら(Field)習得(Learning)する意義は大きいと考え、開催しています。

平成23年度に第1回目を開催し、今年度で第4回目の開催となります。(開催趣旨については、第1回O.F.L開催報告(港のたより Vol.100)を参照願います。)



講演の様子

今回は、「北海道開発土木研究所月報(2005)特別寄稿 シリーズ港湾技術の創世記に学ぶ～廣井勇に学ぶ OTARU ゼミナールの活動より～」論文No6「小樽港北防波堤構造の秘密」の執筆者である株式会社西村組執行役員常務札幌支店長である中村弘之氏を講師に迎え、「小樽築港の検証」と題してお話を伺いました。

講演では、1世紀以上に亘って存在している小樽港北防波堤について、その各構造断面(甲部、乙部、丙部)で用いられている築設の技術を検証し、その姿から、「日本近代港湾建設の父」といわれる廣井勇博士の未来を見据えた技術と設計の確かさの証を学びました。総延長1,289mに達する小樽港北防波堤について、その構造、堤体の一体化に関する技術及び堤頭部の施工方法等を詳細な現地調査や発掘調査により解明し、報告されています。



事務所前の斜塊を見学

講演の後には、北防波堤の断面構造、使用材料及び施工手順などの詳細や事務所前に展示されている斜塊の由来などについて、活発な意見交換が行われました。

また、翌日には、講演参加者が北防波堤及び小樽港湾事務所資料コーナー等において、実際の構造物を見学して、講演内容の理解を深めています。

なお、今回の講演内容については、その元となった廣井勇工学博士研究会の成果が(一社)寒地港湾技術研究センターにて取りまとめられており、報告書は寒地港湾技術研究センターでの閲覧が可能となっています。

最後に、本O.F.Lは、今後も、継続して開催していく予定ですので、多数の方々のご協力をお願いします。

